

イラン・中東緊迫

湾岸大手3社、限定運航を継続

■中東発着便

中東情勢の緊迫化に伴う空域制限の影響で、中東発着便の制限が続いている。湾岸大手航空会社の運航状況を見ると、カタール航空(QTR)はドーハ発着の限定旅客便を設定しつつ、貨物便ではドーハを経由しない便のみ運航している。エミレーツ航空(UAE)は約80都市規模の旅客便運航計画を案内し、旅客便と貨物機を組み合わせで貨物接続を維持している。エティハド航空(ETD)はアブダビ発着旅客便を限定的に再開し、各社とも主要都市へのネットワークを一部取り戻しつつある。

運航計画の全体を見ていく。カタールでは現在も空域閉鎖が続いている。QTRは同国航空当局による限定的な許可を受け、ドーハ発着の一部旅客便を今後数日間運航する計画を示した。現地時間11日時点の運航計画では、ドーハ発は3月13～16日に計60便、ドーハ着は13～17日に計59便を予定しており、片道ベースでは計119便となる。ドーハ発は1日15便規模、ドーハ着は1日12～15便規模の限定運航となる。北東アジアではソウル、北京、上海、香港が対象に含まれている。

一方、貨物ではドーハ発着の定期

貨物便を引き続き一時停止しており、ドーハを経由しない一部フレイターのみ限定運航としている。新規貨物の予約・受託にも一時的な制限が設けられており、実質的には旅客の限定復便に対し、貨物はより慎重な運用が続いている。

アラブ首長国連邦では、地域空域の制限の影響を受けながら運航が継続されている。エミレーツ航空はウェブサイト上のcurrent scheduleページで、東京(成田、羽田)発着を含む約80都市規模の旅客便運航を案内している。ドバイ発では欧州、中東・アフリカ、アジア、オセアニア、北米・中南米の主要都市が含まれ、ロンドン、パリ、フランクフルト、カイロ、ジェッダ、ムンバイ、バンコク、シンガポール、ソウル、香港、シドニー、ニューヨークなどが対象となっている。

UAE貨物部門のエミレーツ・スカイカーゴは、現地時間9日16時更新の運航資料で、旅客便・貨物便ともに縮小スケジュールで運航しているとした。旅客便は羽田、成田を含む106地点、貨物機は関西を含む23地点を対象としている。運航予定便では新規貨物受託も可能としており、貨物ロード・フィーダー・サービス(RFS)では関西から羽田、中部、成

田への接続も示している。

エティハド航空は、3月6～19日までの間、アブダビ発着で限定的な商業便運航を再開した。対象路線には東京、ソウル、北京、香港、バンコク、ロンドン、パリ、フランクフルト、ニューヨーク、トロントなどが含まれる。ただし、すべての目的地が毎日運航するわけではなく、その他の定期商業便は引き続き停止としている。

ETDの日本路線旅客便は、14日にアブダビ発成田向けが到着し、クルーレストなど調整後、翌15日発で成田発アブダビ向けに運航される見通し(12日時点)。その後は18日にも成田発着便の運航を予定している。いずれの便でも貨物を受託する。ただしアブダビ以遠向けの貨物については、運航便のスペースが確保できるもののみ受託する。成田線については、18日以降は週2便程度の運航が見込まれる。

航空物流の観点では、3社の対応は明確に分かれる。カタール航空は旅客の限定運航に対し貨物はドーハ発着停止を継続、エミレーツは旅客・フレイター併用で貨物ネットワーク維持を優先、エティハドはまず旅客の限定復便を進める局面にある。湾岸ハブ経由の貨物動静は、各社とも空域状況と当局承認に左右されるため、今後もしばらくは便ごとの運航可否確認が前提となりそうだ。